

◆研修会特集◆

患者図書室の運営

～運営及び利用者のための様々な工夫について～

池田 友昭

I. はじめに

当院の患者図書室、正式名称「長野日赤からだの図書館」は、約12年前の2006年11月1日に、現在とは別の場所の中央棟1F正面玄関横で開設され、面積は15㎡と大きくなく、蔵書は400冊、開館時間は10時～15時30分であった。2015年10月20日に現在の場所である南棟2階がんサポートセンター内に移設されリニューアルオープンし、面積は44.5㎡と広くなり、開館時間も9時30分～17時と長くなった。蔵書は約1,700冊となり、リニューアルオープンにより規模が拡大され、より患者さんのために利便性を備えた。

開設して10年あまりと、まだ歴史の浅い患者図書室では皆が利用しやすい図書室、来てよかった、あってよかった図書室にするために行った、日々の努力と工夫を述べたい。

II. 患者図書室の運営・概要

1. 概要

患者図書室の概要は表1となる。図1は平面図、図2は室内風景となる。飾りを季節ごとに変更しボランティアの作成した掲示物を飾り、室内を明るく和やかな雰囲気とするよう心掛け、利用しやすい図書室を目指してい

る。月曜日はがんサポートセンターとして患者会に使用するため、開館していない。がん診療関係の本もあり患者会では利用しやすいようである。

本は日本十進分類法（NDC）をもとに分類し、所在記号ラベルを貼り配架を行っている。新たに配架したものや一部の注目作はこれに限らず棚の上に平置きや、入ってすぐの書棚に面陳列で別置きをし分かるようにしている。

図書室概要	
【場 所】	南新棟2階 がんサポートセンター内
【面 積】	44.5㎡
【閲覧用備品】	机×1 イス×6 ソファ
【開館日】	火～金曜日（休診日を除く） ※月曜日は、がんサポートセンターで利用
【時 間】	9:30～17:00
【勤務者】	ボランティア1日3枠（午前1枠、午後2枠） （欠員により2枠の日もあり）
【蔵書等】	約1,700冊 医学・医療関係、栄養関係、一般雑誌 小説、実用書、コミック、病気に関するパンフレット
【コピーサービス】	有料（サイズ：A4、A3、料金：白黒10円、カラー50円）
【貸 出】	入院患者のみ 2冊まで （当日含め3日間、木金貸出分は火曜日返却）
【パソコン】	2台、インターネット可能 （病気、健康に関する情報の収集に利用）（印刷1頁10円）

表 1

IKEDA Tomoaki

長野赤十字病院 医師業務支援課 図書係

長野赤十字病院 からだの図書館平面図

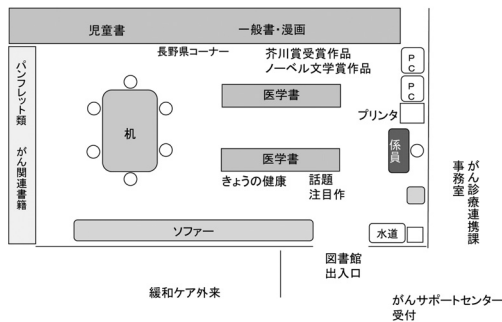


図 1



図 2

2. 業務内容

直接サービスが主となる（表 2）。貸出は、入院患者のみ 2 冊まで 3 日間。手続きは、(1) 患者が受付に本を持ってくる。(2) 資料貸出カードへ患者氏名、入院病棟、資料名（本・雑誌）を記載してもらう。(3) 本と返却日を記載した用紙を渡す。なお、貸出業務にバーコード、IC タグ等の機械式は取り入れている。

業務内容

【図書の貸出】	入院患者のみ (申込用紙[資料貸出しカード]の記載・確認)
【図書の返却手続き】	資料貸出カードの確認、本を書棚へ戻す
【コピーサービス】	プリンタ操作、料金預かり
【パソコン利用手続き】	利用申込書記載
【利用者のカウント】	日報へ記載
【本・書棚の整理】	
【ボランティア日誌記載】	ボランティア毎に 1 冊、図書係で確認
【草花の水やり】	職員のみ
【清掃】	職員のみ

表 2

3. 勤務者

ボランティアが担当するが、不在枠があるため我々図書係と図書係の所属課、医師業務支援課職員が当番に入る。また、ボランティアは毎月全日勤務しないことから（ボランティアの出席率は 60～70%）、図書係及び医師業務支援課職員で当番に入ることが頻繁になり、開館時間も長いため、本来の業務にも影響が出ており苦労している。

4. 一日のスケジュール

(1) 開館（9 時 30 分）

開館の少し前に図書係が開錠、準備（案内看板配備、パソコン起動等）を行い、担当のボランティアに勤務をお願いする。パソコンの不調や患者からの本の問い合わせ等、何かトラブルがあれば図書係を呼んでもらう。

(2) 12 時 30 分～13 時

午前枠ボランティアの勤務が 12 時 30 分で終了となり、次の勤務者が来る 13 時までの間、患者図書室の受付に誰もいなくなるため（不在の掲示はあり）、図書係 2 名のうち 3 階の

職員図書室で昼当番をしている者が10分おき位に様子を見に行く。昼食を終えた入院患者が貸出・返却手続きに来ることや、インターネットを利用したい等、利用者の来館が多々ある。

(3) 13時～17時

午後のボランティアが勤務する。午前同様、何かあれば呼び出してもらう。

(4) 閉館（17時）

「ボランティア日誌」（ボランティアごとに1冊）、「からだの図書館日報」（貸出冊数・人数や時間ごとの利用者数等を記載する）を受取り、内容確認、申し送り事項（勤務時にあった事や要望）を聞き終了となる。

5. 利用統計

利用者数統計（表3）、貸出冊数統計（表4）から、年々増加していく様子がうかがえる。ホームページや入院案内はもちろんだが、患者向け季刊誌「わかさと」などで「からだの図書館」を取り上げアピールしている。このような取り組みにより認知度も上がってきている。

特に2018年7月は過去最高の利用者数となった。2018年度の7月を除いた1日の利用者数は平均で14～15名であるが、7月の平均は18名、20名以上の利用が6日あり、30名を記録した日もあった。この年の夏はとても暑かったことも影響していたと思われる。皆口々に「病棟は暑いから本を読みに来た」や「外来の待合は暑い」などと言っていた。

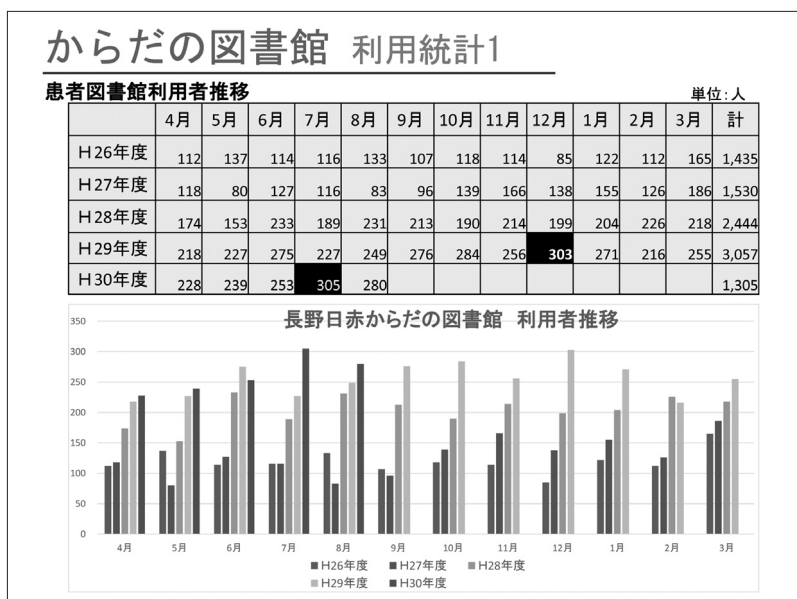


表 3

からの図書館 利用統計2

貸出冊数推移

単位:冊

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28年度		19	24	29	42	77	57	52	48	50	61	40	499
H29年度	74	88	119	77	86	63	115	93	134	96	70	102	1,117
H30年度	76	56	91	104	81								408

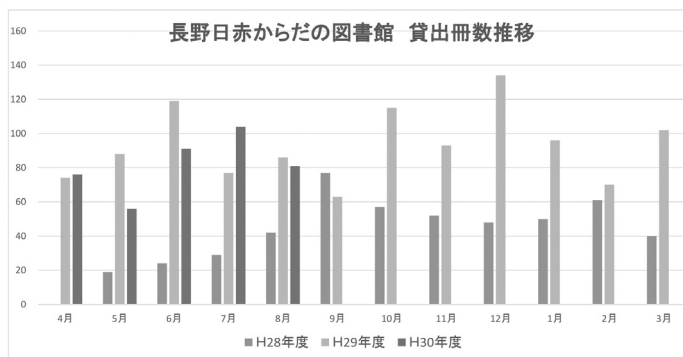


表 4

6. 事例

患者図書室では様々な事が起こっており、対応に苦慮する場面もあるが、時には感謝の言葉をいただくこともある。以下に例をあげる。

- (1) コピーをB4版で取ってもらいたい。
(数件あり)

対応：用紙サイズがA4・A3しか用意していないため、A3の用紙でご理解していただいた。

- (2) 家族の入院手続きのためにお子さんを預けたまま、閉館時間を過ぎてでも迎えに来ない(2件)。

対応：親御さんが戻って来るまで閉館時間を30分延長。がんサポートセンターの看護師長が外来へ連絡し、親御さんに来てもらった。

- (3) 病院への「ご意見用紙がない」と騒ぐ方(ボランティアより応援要請)。

対応：総合案内係を呼び説明対応。そもそも患者図書室には「ご意見用紙」は置いていない。

- (4) 飲食をしている方。

対応：図書室内では飲食は禁止しているため、口頭にて注意。休憩所と勘違いしていた。

- (5) 初めて来館した方、図書室を知らなかったらしく大変喜ばれていた。

- (6) ある病棟の入院患者が複数人で来館し楽しんでいた。

- (7) ご意見箱にかわいいイラストが投函されていた。

(8) コピーサービス対応時に感謝の言葉を頂いた。

コピーを取る場所やサイズ等色々指定があったが、相談しながらコピーを行い、満足されていた。

この他にも様々な事が起こっており、その都度対応している。

Ⅲ. 工夫

患者図書室の利用者が増えるよう、そして便利で使いやすく、閲覧と利用ができるよう、現時点で考えられる工夫を行った。

1. 平置き

ほとんどの本が書棚に棚差しの状態で、表紙のみが見えるだけであった。備え付けの棚の上がだいぶ空いていたので、話題の本や面白そうな本、読んでもらいたい本などを選び「平置き」を増やした(図3)。これにより貸出冊数の増加した本が『長野のおきて』¹⁾、『長野県の名字』²⁾の2冊である。当初この2冊は棚差しで置かれており、あまり目立たなかった。本棚の上に平置きするにあたり、「長野県コーナー」を設けようと思い、この2冊の他に長野県関係の本を数冊まとめて置くことにした。この2冊は私が読んでも面白くて長野県人であるのにまだまだ知らないことがあり、みんなにも読んでもらいたいという思いから平置きにした。

『長野のおきて』については、今までほとんど借りられていなかったが、ランキング9位に入るまでになった(Ⅲ-8参照)。やはり平置きにすると目にする機会も増えるため、利用が多くなる事が分かった。



図3

2. ブックケース

備え付けの棚の上に、前述の平置きを行ったが、平置きはどうしても場所を取ってしまう。そのため、棚差し状態の物も置きたいと思い、ブックケースを利用し棚の上に本をまとめて置いた(図4)。ブックエンドで仕切るよりも、統一感があってよい。

ブックケースの利用



図4

3. 貸出中カード

蔵書目録やOPACを置いていないため、利用者は実物を見て蔵書を認識する。貸出中の本は目にする事ができないため、蔵書の

有無すら認識できない状態である。そのため、一部の本には「貸出中カード」を作り、貸し出されていることが分かるようにした(図5)。これにより次回足を運んでもらえる機会になればと思う。

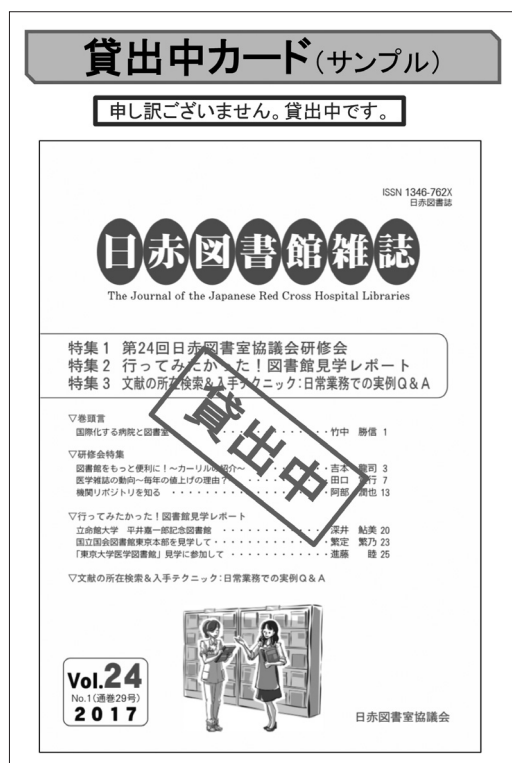


図5

4. ティッシュ箱

備え付けの棚の奥行きがあり過ぎて、本が後ろに押されてしまう。それを防ぐためにティッシュの箱を包装紙で包み本棚の奥に置き、本がそれ以上奥に行かないようにした(図6)。せっせと使用済みのティッシュ箱を院内から集め、全部で180箱(1段15個×12段)を使用している。集めるのにも包装をするのにもかなりの時間を要した。



図6

5. 基本的な整理

広い患者図書室ではないため定期的に見回り、書棚の本の乱れやイスなどの乱れを整理した。具体的には、背表紙を揃える。巻を順番通りに整列する。ブックカバーのずれの補正を行った。当たり前のことのようにであるが、見やすくて手に取りやすく、気持ちよく利用してもらいたいという思いから、常に整理整頓を心がけている。

6. その他の工夫

患者図書室に入っすぐの書棚には、注目して欲しい本や新刊を面陳列している。また、平置き、面陳列の本は定期的に棚差しと入替えを行っている。

他に、2月22日は世間では「猫の日」と言われている。それにちなんで、2月22日は蔵書の中から猫関連の本を1日限定でまとめて並べた。また、芥川賞受賞作品やノーベル文学賞受賞作品のコーナーも設けている。

7. 寄贈本

テレビドラマ化もされた「猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子」シリーズの作者、内藤了さんから新刊がでる毎寄贈を戴いている。内藤了さん

は長野市出身である。他にも著作の「よろず建物因縁帳」シリーズも寄贈を戴いている。これらの本をまとめて置き、寄贈された旨の掲示や、いただいたイラスト入りハガキも展示している。

8. 貸出冊数統計・著者別統計

2017.6～2018.3までの貸出冊数統計(表5)、著者別統計(表6)から、貸出しは医学・医療系の本より、小説やマンガの利用が多い事がうかがえる。

貸出冊数ランキング			2017.6～2018.3調べ
★1位	25冊	おたんこナース	
2位	21冊	ママはテンバリスト	
3位	18冊	居眠り磐音江戸双紙 (佐伯泰英)	
4位	16冊	栄養と料理	
5位	15冊	あたリンち ざんねんないきもの事典	
6位	14冊	ナミヤ雑貨店の奇蹟 (東野圭吾)	
7位	13冊	火花 (又吉直樹) マンガ日本の古典	
8位	12冊	20世紀少年	
9位	11冊	コンビニ人間 (村田紗耶香) 騎士団長殺し (村上春樹) 長野のおきて	
10位	10冊	猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子 (内藤了) 神様のカルテ (夏川草介) ワンピース	

表 5

著者別ランキング			2017.6～2018.3調べ
★1位	54冊	東野圭吾	
2位	34冊	宮部みゆき	
3位	24冊	内田康夫	
4位	18冊	佐伯泰英	
5位	15冊	村上春樹	
6位	13冊	又吉直樹	
7位	11冊	内藤了 村田紗耶香	
8位	10冊	夏川草介 湊かなえ 百田尚樹	
※以下10冊未満のため略			

表 6

9. 利用者中心思考

図書館業務のあり方を利用者の立場から見て行い、図書館サービスを利用者のニーズに視点をあて適切なサービスを行うもので、その基本は「徹底的な利用者側に立って図書館サービスを展開する」という考え方がある³⁾。この理論を基に図書館運営を行えば、利用者の利便性をより向上できると思われるが、利用者ニーズの分析や何を求めているかを知ることでもある。

10. 選書

予算がなく基本的に蔵書は寄贈であるが、たまたま図書カードを寄贈していただいた。寄贈者から患者図書室で利用して欲しいと要望があったため、本を整備することにした。どのような本を購入したら良いか試行錯誤しながら、医療・医学系の本より、新しいものが少ない小説や一般の読み物にした。

患者図書室の選書基準は特になかったため、今回の選書基準は以下とした。

(1) ブックセールランキング上位

購入時、インターネットのランキングを参考にしたり、書店数店に足を運んで実物を見て参考とした。

(2) 蔵書で足りていないジャンル

足りていないと思われるジャンルについて、書店数店で実際に見てから良さそうなものを選んだ。

(3) 蔵書巻の続巻

基本は寄贈のため、シリーズ物の小説、漫画で全巻揃っていないものは多数あるが、その中で患者から続きが読みたいとご意見を複

数いただいた物の続巻を選んだ。

今回、選書にあたり、明確な基準がなかったこともあり苦労した。足りていないジャンルの選書は片寄りが出た感は否めない。

IV. これからの患者図書室

1. 病院建替計画

当院は現在の地に移転して2018年現在で35年が経過しようとしている。施設面、機能面など老朽化が著しく、2025年着工、2027年竣工予定で建替えの話が進んでいる。当院は地域医療支援病院のため、医療法第22条により図書館の設置義務があり、設けなければならない⁴⁾。これは医師や看護師、検査技師などの医療従事者に対して医学、医療情報や関連文献などの情報提供を行う専門図書館のことであり、患者用図書館のことではない^{5, 6)}。そのため、患者用図書館については現在の施設基準上では設置義務がなく、なくてもよい⁷⁾ため継続するかは不明である。しかし、今ある様々な院内施設は当然継続すると思われる。

患者図書室の設置をする場合、こういった形態にしていったらよいか。案として、(1)現在と同じ形式にする。ただし、がんサポートセンター内等どこかの部署の一角ではなく、単独が望ましい。(2)喫茶店と隣接した貸出を行わない図書・雑誌コーナー。この場合、破損や不明図書等の管理の問題が出てくる。

2. 現在の問題点

病院の建替えが10年以内と迫っている中で、現在の患者図書室の問題点を整理してみたい。

(1) 狭い

もともとそれ程広くない部屋であり、さらに車いすが通れる幅に書棚を配置しているた

め棚数も限られてしまい、これ以上本を置けない。また、限られたスペースのためレイアウトの変更も容易ではない。蔵書を増やすには広い部屋が必要である。

(2) 立地が悪い

がんサポートセンター内にあるため、入口を2つ通らないと患者図書室に入れない。各種案内板や入院案内に記載はあるが、廊下からでは存在が分かりにくい。

(3) 蔵書が少ない・古い

予算がないため本の購入は基本的にはできず、寄贈でまかなっている。患者図書室立ち上げ当初の寄贈本が主で古いものが多い。

(4) 書棚が備え付け

図書室用に作られた部屋ではなく、窓際の備え付けの書棚（物入れ）は使いづらい。奥行があり過ぎ、本が後ろに押されてしまう。低い位置に置いてある本は部屋が狭いこともあり、苦労してかがみ込んで取り出さなければならない。

(5) 勤務者はボランティアがメイン

基本の勤務者はボランティアであり、図書室勤務時間の全ての枠は埋まっておらず、また、欠席する事も多い為、図書係・医師業務支援課職員でリリーフを行う事が多く、本来の業務に影響をきたす等、苦労している。

(6) 貸出が手作業

本の貸出は、患者が申込書に手書きで行っている。公共図書館のようにバーコードで読み取れば貸出作業は簡単になる。現在表計算ソフトへ日々手入力で行っている貸出統計

も簡単に取れる。診察券かネームバンドと連動出来れば利用券作成の手間が省けるが、医事システム・電子カルテシステムと図書のシステムを連動するのは技術面やセキュリティ面から難しいであろう。個別に利用券を作成するしかない。

3. 新病院で目指す患者図書室の形

ランガナタンの図書館学の五法則の1つに、「図書館は成長する有機体である」という法則がある。図書館はその時の社会変化・ニーズに対して敏感に対応して行かなくてはならない。前述した現在の問題点もクリアした、室内も広く蔵書も充実した利用しやすい患者図書室を目指し、さらにその時代のニーズに合った患者図書室が、建替え後の新病院と一緒に設置できることを願っている。

参考文献

- 1) 長野県地位向上委員会. 長野のおきて. 東京：アース・スターエンターテインメント；2014.
- 2) 森岡浩. よくわかる長野県の名字. 長野：しなのき書房；2008.
- 3) 毛利和弘. 図書館制度・経営論. 東大阪：近畿大学；2012. p.53.
- 4) 厚生労働省. 地域医療支援病院に係る基準について. [参照 2018. 9. 6] <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001hx9n-att/2r9852000001hxga.pdf>
- 5) 塩見昇. 図書館概論四訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ). 東京：日本図書館協会；2015. p.200.
- 6) 浜口美由紀. 図書館概論. 東大阪：近畿大学；2012. p.122.